

第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画の概要



計画期間

令和4年度～令和8年度

第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画とは

これまでの「鹿屋市子ども読書活動推進計画」期間の取組と課題を踏まえ、令和4年度からおおむね5年間にわたる鹿屋市の子ども読書活動の推進に関する施策の基本的方針と具体的な方策を明らかにするものです。



「親子の20分間読書」運動 ～親子のふれあいを大切にする家庭を～



鹿児島県立図書館長を務めていた椋鳩十氏が「教科書以外の本を子どもが20分間くらい読むのを、母が傍らに座って、静かに聞く」運動を提唱し、「母と子の20分間読書」が始まりました。その後、昭和35年から鹿児島県が「親子20分間読書運動」として本格的に推進し、この運動は全国に波及していきました。鹿屋市では、この運動の原点や歴史を踏まえつつ、読書を通じて心をふれあう家庭が増えるなど、家庭教育の充実を図るため、全市的に推進します。



第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画の特色

- 「親子の20分間読書」運動を通じ、親子のふれあいを大切にします。
 - 共通実践事項の設定（朝読み夕読み、家読の時間、親子読書の日等）
 - 地域やPTA等との連携（運動推進PTAの委嘱、町内会での活動等）
- 発達段階に応じた取組により、読書への関心を高めます。
 - 成長に応じた「絵本カリキュラム」や「おすすめ本リスト」等の作成
 - 継続的に読書の興味・関心を高める取組の工夫
- いつでも、どこでも、だれでも気軽に読書を楽しめる環境を整備します。
 - まちなか図書館の設置場所の拡充（放課後児童クラブ、寺子屋等）
 - 電子書籍の導入（児童生徒のタブレット活用）及び移動図書館車の活用促進

鹿屋市の現状と課題

目標項目	令和3年度の目標値	現状	集計年度
1 児童生徒の家庭での1か月間の不読率	小 7.0% 中 14.0% 高 21.0%	小 8.7% 中 32.3% 高 53.6%	R3
2 児童生徒の家庭や学校での1か月間の平均読書冊数	小 24.0冊 中 6.0冊	小 20.9冊 中 6.0冊 高 4.0冊	R3
3 公共図書館（室）の児童書の貸出冊数	200,000冊	194,017冊	R2
4 学校図書館の児童生徒の貸出冊数	小 102.0冊 中 18.0冊	小 108.4冊 中 17.4冊	R2
5 図書の充足率100%を満たしている学校図書館の割合	小 88.0% 中 92.0%	小 78.3% 中 83.3%	R3
6 ブックスタートへの乳幼児・保護者の参加率	100.0%	100.0%	R2

- ・家庭での不読率は学年が上がるにつれ、上昇している。
- ・低学年から本を嫌いだと感じる児童生徒がいることから、就学前から本とふれ合う習慣をつける必要がある。
- ・不読率が高い一方で、1か月に本を10冊以上読む中学生が30%、高校生が10%いることから、二極化の傾向が見られる。

第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方と達成目標



第4次推進計画の基本目標と基本方針

基本目標

子どもが読書の楽しさや喜びに出会う機会をつくり、自ら本に手を伸ばす子どもを育てる。

基本方針

- 子どもが主体的に読書活動を行うことができるように、家庭・地域・学校が一体となり、社会全体でその推進に努める。
- 子どもが乳幼児期から発達段階に応じて読書に親しめるように、公共図書館（室）・学校図書館等の読書環境の整備・充実に努める。
- 子どもの読書活動の推進には、子どもに身近な大人が読書活動に理解と関心をもつことが重要であることから、その活動の普及と啓発に努める。



令和8年度までの目標値

目標項目	現状	集計年度	令和8年度の目標値
未就学児 ブックスタート事業の満足度	94.8%	R2	100.0%
児童生徒	児童生徒の家庭での1か月間の不読率	小 8.7% 中 32.3% 高 53.6%	R3 小 7.0% 中 26.0% 高 43.0%
	児童生徒の家庭や学校での1か月間の平均読書冊数	小 20.9冊 中 6.0冊 高 4.0冊	R3 小 25.0冊 中 7.0冊 高 5.0冊
	公共図書館（室）の児童書の貸出冊数	194,017冊	R2 200,000冊
保護者	「親子の20分間読書」運動の認知度	61.4%	R3 100.0%
学校	本に親しむ取組の実施割合（朝読書等を除く。）	小 78.2% 中 58.3% 高 66.7%	R3 小 86.0% 中 64.0% 高 73.0%
	図書の充足率100%を満たしている学校図書館の割合	小 78.3% 中 83.3%	R3 小 100.0% 中 100.0%